

平成25年1月17日（木）

第96回郵政民営化委員会後 委員長記者会見概要

（15：50～16：05 於：永田町合同庁舎3階 郵政民営化委員会室）

（会見概要は、以下のとおり。）

○西室委員長

今日の郵政民営化委員会の概要について、御説明したいと思います。

資料はお手元に2種類あると思います。本日は、日本郵便株式会社、これは御承知のように、去年の10月に郵便局株式会社と郵便事業株式会社の統合後の状況というのを聞かせていただくということで、ヒアリングをさせていただきました。

10月1日に実際の統合が法的にも認められているということでありまして、第1段階としてのサービス改善というのを実施したということで、簡単に言うと、垣根を取り払う話を段階を追って行っていこうということで始まっているということです。

これは、各郵便局にお寄りになるとお気づきのとおり、段階を追ってと言えばいいのか、それぞれの郵便局がそれぞれの地域の事情等に沿って実際にやっているというのは、引越し業者が出入りしていますからお気づきだろうと思います。

今後、第2段階として、一層のサービス改善を行う。新規事業の開発、本格的な組織統合に向けた取り組みをこれからやっていくのだという御説明をいただきました。全体的に言えば、郵便局事業そのものの経営状況は依然として厳しくて、今後、不動産事業とか郵便局の活用事業とか、一層の経営改善に向けた取り組みを進めていかなければならないという御決意の表明がありました。

その新しい事業、その他については、お配りした資料の中に色々書いてございます。書いてありますけれども、これはヘッドラインが並んであるだけで、まだ中身はほとんどないと言ってもいいのではなかろうかと思います。ひまわりサービスみたいなのは一部始めています。それについての評価が高いというのも事実でありますけれども、これから先のことについては、委員皆様の方から、非常に高い期待がかかっているという御発言が多かったということです。

特に三鷹市長の清原委員からは、三鷹市で色々な公的な会合その他にも郵便局から必ず御参加もいただいて、公的サービストータルの枠の中で御協力をいただいているということでもあります。

これから先、やはり民営化した会社として2つの事業が一緒になるわけですから、これが清原委員からのお話であり、委員全体の意見でもありますけれども、それぞれの営業の努力をしておられる方がいらっしゃるので、そういう方々の営業努力というのが報われるような会社にしてもらいたいという強い御希望がありました。

もう一つ、先ほど言ったひまわりサービスなのですけれども、ひまわりサービスというのは、過疎地においては相当に効果もあるし、評判も高い。それだけではなくて、実質的には都会の中の孤独死、そういう高齢の方々に対するケアという意味では、この郵便局の持っている、これから拡充していこうというひまわりサービスというのは、ひとつのこれから将来に向かっての高齢化社会の核になる事業になるだろうと、これに期待を大きくしていきたいということでもあります。

あとは、管理者社員の統合の効果を出すようにということで、具体的にもお願いもしましたが、本件につきましては、さらに今日の発表だけではなくて、4月以降、新しい中期経営計画も出していただけるということですが、その間にも、色々気付いたことがあったらお願いしていきたいと申し上げます。

今回、日本郵便株式会社のシステム統合の話というのが出ていますけれども、これは正直言うと、相当大変な作業だろうと思いましたが、特に2年の間にしっかりとシステム統合を完遂するように、マネジメントの方でもしっかりやっていただきたいというお願いを特にしてございます。

次回の委員会は2月1日の予定で、今度は、郵便事業の方のヒアリングをやらせていただいて、それなりの意見を述べたいと思っております。

ほかに、やはり見学も色々しなければいけないので、JPタワーを1回見せてほしいということで、委員とJPタワーの視察をさせていただくということも決まっております。

○記者

今日、会社統合の統合効果とかの説明があったと思うのですが、説明に対して西室委員長はどのようにご覧になりましたか。今日の説明の部分について。

○西室委員長

説明としては、ちゃんと形の整った御説明をいただいたと思いますけれども、熱意のほとばしりを感じることができなかったみたいな話でしたので、それで頑張ってくださいというのを各委員から、みんなの期待は大きいので、しっかりやっていただきたいというお願いをしたということです。

○記者

そうすると、あとどういったところに効果を求めるということなのでしょうか。

○西室委員長

これは、つまりパブリックサービスの中の一環として位置付けて、ユニバーサルサービスはどのようなものであるか。それを起点にして新しい事業をやっていく、それを一挙に進めるよりは、徐々に進めていくという考え方そのものは極めてリーズナブルな考え方ですけれども、リーズナブルな考え方であるだけに、やはり2年の間に是が非でも行うといった話とはちょっと違った温かさを感じたので、温かさというのは悪いことではないのです。ですけれども、そういう意味では、もっとしゃかりきになってやるというところが出てくるかなと思ったら、それほどでもない。ただ、この調子でいけば、安定的な社会に対する貢献はできるようになるだろうという印象もあります。

○記者

今年の民営化委員会の議論の方向なのですけれども、去年は金融の新規事業の話がございまして、日本郵政に対するヒアリングをやっています。それ以外に何か今年、議論しなければいけないテーマがあるとしたら、どういう点になりますでしょうか。

○西室委員長

これから先の日本郵政全体の運営はどうやっていくのかということが3月までの一番大きなテーマだろうと思います。これは御承知のように、6月には一般の会社と同じですから、株主総会をやらなければいけない。そうすると、株主総会用の提案、議案がまとまるのが3月中ですから、それまでにやはりこれから先の方針について、ちゃんとしたお話を伺いながら、我々としての意見も具申した方がいいだろうということです。ただ、分けて考えなければいけないのは、この委員会そのものは指揮権があるわけではありません。我々は全体の国民の大事な代理として、中立、公正な意見を申し上げることが基本ですから、あれをやってはいけない、これをやりなさいということ具体的に言うよりは、こういうことをやってもらった方がいいのだろうと、こういうことはやらない方がいいのではないかとということまでの意見は言うことができるのが、多分3月いっぱいまでだろうと。それはちゃんとやらなければいけない。

○記者

逆に、それ以降は何か。

○西室委員長

それ以降も具体的に言えば、例えば病院があります。病院の経営というのはずっとコンスタントに赤字。これは、いつ、それについての御説明を伺うかはまだ決めてはありませんけれども、比較論から言って、公立の病院の経営も相

当に良くなっているのです。この通信病院がどうも取り残されている感があるので、その点についてはどうなのだというのは1つあります。

もっとジャーナリスティックな話をすれば、かんぽの宿は静かになったけれども、その後、どういう状況になっているのか、これから先どうするのかという話だとか、不動産業に進出をされているのだけれども、まずJPタワーができたけれども、それから先はどう考えて、その利益貢献はどうなっているのだとか、個別に考えると色々なことで国民を代表してというか、聞いておきたいこと、そしてまた聞かせていただいたら皆さん方にも報告をすることが色々あると思うのです。だから、そういう意味で、私は今、思いついたことだけしゃべっていますけれども、皆さんの方から日本郵政はこういう点についてもう少し頑張らなければいけないのではないかみたいなことがあったら、ぜひとも御意見があれば言っていただきたいと思います。

○記者

統合のロードマップと、あといろんな事業の計画と総合的に見て、今、言われている上場計画と整合性があるとお感じになりましたでしょうか。

○西室委員長

今、紙に書いてある範囲では、整合性があると思います。ですから、そのスケジュールどおりしっかりやっていただければ、上場のスケジュールは2年半と言っている話に沿った形で具体化できるだろうと思います。ただ、上場の話というのは、その具体的計画を作り始めてから色々な問題が出てくると思いますので、その都度、説明は伺いたいし、こちらからもアドバイスがあれば申し上げたいと思います。

○記者

ひまわりサービスとかのお話が出たのですけれども、多分、一番郵便局がやりやすい核になる分野だということできさっきおっしゃられたのですけれども、実際に収益的に見た場合には、そんなには期待できない感じですか。

○西室委員長

収益源として期待するということを最初から構えてひまわりサービスをやっているのではなくて、現実に郵便局のネットワークというものが社会に貢献できるとすると、そのひまわりサービスというのは1つの具体的なサービスとして位置付けられるだろうと。そういうサービスについて、最初から収益の問題を考えるよりは、どういうふうに協力する体制を作っていくかも含めて、少なくとも持ち出しにはならないようなサービスが、皆さんが郵便局があつてよかったねと思ってくれるようなサービスとして育てていくというのが非常に大事な部分だろうと思います。

三鷹市長（清原委員）がいらっしゃったので、そういうことのため郵便局長

も入っていただいて、警察署長も消防署長も、色々なパブリックサービスをやっておられるところが月に1回は会合を持って、どうやったら住民全体に対するサービスの向上ができるか、あるいは安全と安心というのを確保できるかということに取り組んでおります。その一環として、郵便局は極めて重要な地位を占めるのですというお話。これは確かにそうだろうと思いますし、やるべきことだと思います。

○記者

では、済みません、あと1点だけ。いろんな事業とかの順番みたいな、こういうものを先にやっていきたいとか、そういうことは言ってらっしゃいましたでしょうか。

○西室委員長

今日の（資料）に一応書いてはあるのです。だけれども、順番は書いていない。順番を書いていないということはどういうことかということ、順番をつけるよりは、それぞれのところでやりやすいところからやってみるというのを始めますということですから、これに順番をつけろということ、せっかくうちの郵便局の管内だったら、こういうことが役に立つのにというところを後ろに順位を下げてということはやらないで、色々なところが実績を上げながら、総合的にやっていく。それで2年の間に具体的なものを生み出していく。これは考え方としては、極めてリアリスティックだと思います。

○記者

（資料96-1の）ページで言うと、7ページ、8ページというところなのですが、いわゆる郵便局の統合の最終的な姿というか、上場時です。郵便局グループの管理体制という特に7について、この表を見ただけではなかなか分かりにくいというか。

○西室委員長

おっしゃるとおりですね。

○記者

1,602グループと数えるのか、238グループなのかとか、合計を合わせてどういうふうになるのか、そのあたりをもう少し具体的に説明していただけますか。

○西室委員長

これは、私は説明不能です。現状では、郵便局側の方も具体的に細かい数字は、これから先、色々詰めながら作っていきますということですから、私も説明できません。

○記者

いかにもイメージという感じなのですか。

○西室委員長

はい。

○記者

郵便局の統合というのは、ある程度、数字的なものというのは出ていないのですか。

○西室委員長

トータルの数字ですか。

○記者

はい。

○西室委員長

出ていないのです。出ていないとは、出たような出ないような書き方をしてあるわけで、それは実はもうちょっと資料をしっかりと出してというお願いをしているところです。御指摘、まさにそのとおりなのです。簡単に言えば、2つ組織が一緒になって、管理職が半分になる、当たり前の話だろうと、書いても書かなくても同じような話、そういうことを書くよりは、何人が何人になって、それでどうなりますということをもうちょっと教えてくれた方がありがたいという話をしています。

どうもありがとうございます。長時間お待たせしまして済みません。